

## 令和4年度 全国科学館連携協議会 近畿ブロック会議報告書

1. 開催日時： 令和5年2月7日(火) 13:00~14:00
2. 開催方法： Teamsによるオンライン開催
3. 出席者： 綾部市天文館、大阪科学技術館、大阪ガス ガス科学館、橿原市立こども科学館、堺市立ビッグバン、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター、姫路科学館、兵庫県立人と自然の博物館、福知山市児童科学館、バンドー神戸青少年科学館  
以上近畿ブロック加盟館 10館 16名、連携協事務局 4名 計 20名

### 4. 会議内容

#### ■開会あいさつ 神戸市立青少年科学館 館長 和田 智明

5月に感染症分類上、5類への移行が予定されている新型コロナウイルス感染症だが、科学館では引き続き換気対策、ソーシャルディスタンスの確保、状況に応じたマスクの着用などが求められる。同時にロシアによるウクライナ侵攻の影響で、電気やガスといった光熱費の高騰が科学館の経営を圧迫している。近畿ブロック加盟館の連携により、こうした問題への対応に取り組んでいきたい。

#### ■講話 全国科学館連携協議会 会長 毛利 衛

新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに、科学館同士がリモートで容易につながることが可能になった。これからは各ブロック会議に積極的に参加し、全国的な視点で科学館の活動をとらえていきたい。また先日、福井県児童科学館を岸田総理が訪問し、子供へのサポートの重要性を発信していた。近畿ブロックの科学館も各館の特色や知見を生かし、地域の子供をどうサポートすればよいか、ブロック全体で考えていってほしい。

#### ■報告：各館情報交換(入館者数の状況、特別展開催報告など)

##### <バンドー神戸青少年科学館>

2022年4月に常設展を一部更新「ロボットとAI」「発見の小径」、2022年7月にドームシアター(プラネタリウム)を全面更新した。ドームシアターでは学習灯を導入し、投映中に星座早見盤やワークシートを見られるようにしたほか、貸館業務を開始し音楽ライブイベント「LIVE in the DARK」を開催している。

企画では2022年6月のはやぶさ2サンプル展示、7月~8月の特別展「デジタルスポーツミュージアム」、11月のサイエンスフェスティバルの開催により、多くのお客様に来館いただけた。入館者数では、ほぼコロナ前の水準に戻っている。

運営面では引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として、検温と消毒、館内でのマスク着用をお願いしている。

##### <綾部市天文館>

GWや夏休みのイベント、シアターでのコンサートなどは引き続き自粛している。

入館者数はコロナ禍前に戻りつつあり、2023年1月末時点で昨年より2600人の増、コロナ禍前の7割程度となっている。一時期は時短営業の影響もあり、入館者数は通常の半分まで落ち込んだ。昨年は科学館外壁の改修工事を実施し、3月には直径3メートルのドームを用いたミニプラネタリウム展示を開始する予定。

#### <大阪科学技術館>

現在29団体28ブースを出展いただいている。最先端科学技術の発信のため2年ごとに改装しているが、コロナ禍での社会の変容を受け、科学館としての立ち位置について出展者と再考し、2023年7月の改装に向け動いている。

入館者数はコロナ禍前の70～80%まで戻っているが、団体の同一時間帯受け入れ数やホールの入場数に制限を設けている。

最近、海外からのお客様が増えており、日本の科学技術を発信することができている。

昨年夏の特別展ではカーボンニュートラルを取り上げ、企業のさまざまな取り組みを紹介した。また現在は、2022年が国際ガラス年ということでガラスに関する特別展を開催している。今後は2025年の大阪万博に向けての特別展などの取り組みも考えていきたい。

#### <大阪ガス ガス科学館>

2020年3月から臨時休館していたが、2022年12月にリニューアルという形で再開館した。これまで運営してきた3棟を1棟に縮小し、これからの地球環境や未来のエネルギーを楽しく考える展示を新設した。これまで来館されていた小学校や団体に向けてDMを送付し、またホームページを改訂するなどして今後の集客をはかりたい。

#### <橿原市立こども科学館>

科学館が入る施設がおとし、昨年とワクチン接種会場として使用されていた関係で、科学館の運営はかなり制限されていたが、現在は通常に戻っており、さまざまな企画展やイベントを開催できている。こどもの日特別工作教室や関西文化の日無料イベント、また金星探査機あかつき企画展、小惑星探査機はやぶさ2企画展などを開催し、入館者数はコロナ禍前の7割くらいに戻っている。

#### <堺市立ビッグバン>

幼稚園、小学校の団体がかなり戻ってきた。

館内には遊具がたくさんあるが、抗菌コートを活用することで負担を軽減している。また300人収容のシアターは100人に定員を減らして運用しているが、5月以降については堺市と協議していく。

2023年1月からロボットやドローンを動かすプログラミング教室を展開し、大変好評を得ている。

#### <姫路科学館>

コロナ対策としては国の方針変更にともない、シアターや展示室の人数制限をなくし通常に戻している。それにより大型団体の利用がしやすくなった。

ハンズオン展示は開館前、開館中にすべて消毒をすることを継続している。

科学の屋台村イベントやロボットのイベントなどを再開し、また今年開館30周年のため準備も進めている。

#### <兵庫県立人と自然の博物館>

昨年10月に「ひとはく30歳」と題して開館30周年を記念した企画を開催。また新収蔵庫棟を開館し、コレクションの収蔵だけでなく展示もおこなっている。

平日は学校行事が再開され団体も戻ってきているため、一日の上限を設けたうえで受け入れしている。週末は放課後デイサービスの方など福祉関係の団体来館が増えている。施設が30年前のままのため、ミュージアムインクルージョンの観点でユニバーサルデザインなどを取り入れていきたい。

#### <福知山市児童科学館>

小学生以下を主な対象に、地域の理科教育に力を入れている。入館者数はコロナ禍前の水準に戻ってきており、2023年1月の入館者数は昨年の250%となっている。

日本の蝶、世界の昆虫など収集家の方の協力を得て特別展を開催。現在は「歴史とロマンを語る化石」展を実施している。

展示では今年に入りキッズコーナーに遊具を新設したり、図書館と協力して電子書籍を閲覧できる端末を置くなどしている。閲覧するタブレットは外に持ち出し、観察や調べ学習にも活用していきたい。

地元のFM局に36回出演し、科学館の取り組みを広報している。

#### <阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター>

昨年10月に内閣府主催の防災国体を、はじめて近畿で二日間実施した。参加者は約12,000人。センターの開館20周年事業としておこなった。

同じく20周年事業として、防災100年本という未来の防災に役立つ絵本を作る取り組みを始めている。絵本の審査員には神戸こども本の森の名誉館長である竹下景子さんにも参加いただいている。

また昨年6月に東館を防災サイエンスフィールドとしてリニューアルし、科学の目から防災を考えることを目的に、遊びながら防災を学ぶ施設をオープンした。

入館者は高校の修学旅行団体が海外から国内に回帰している流れから増えている一方で、コロナ禍前は年間3万人の来館のあった海外からの来館者が徐々に戻りつつある。

電力の高騰を受けて、金曜日と土曜日の夜間営業は休止している。

#### <事務局 毛利会長>

小澤征爾氏の「宇宙にオーケストラを届けたい」という思いから、JAXAとの協力で実現したONE EARTH MISSIONプロジェクト。そのプロジェクトで制作した、国際宇宙ステーションから撮影した4K映像とオーケストラの音楽のコラボレーション作品を、無償で科学館で使用できることが決まった。詳細は連携協からお知らせする。

『ONE EARTH MISSION』サイト

<https://www.seiji-ozawa-oneearthmission.com/>

## ■協議

### ①次年度以降の「近畿ブロック会議」の幹事について

幹事館の役割について事務局より説明：

1. 年一回開催の幹事会に出席し、総会議案について審議する
2. 前年度のブロックの活動を報告する
3. ブロック会議や研修などを開催し、加盟館同士の交流を深める

くじ引きにより来年度からの幹事館を決定した。幹事の順番は別紙を参照。

なお幹事館の輪番制については以下のとおり運用する。

- ・当年度の幹事館を、前年度の幹事館がサポートする
- ・臨時休館等で営業を休止する場合は、次の幹事館に繰り上げる
- ・新規で近畿ブロックに加盟した館は順番リストの最後に加える

### ②各館からの提案議題

#### 大阪科学技術館の開館60周年

2013年の開館50周年では、「関西の科学館がやってくる」と題して、兵庫県立人と自然の博物館、神戸市立青少年科学館、橿原市立こども科学館、人と防災未来センターに来ていただき、工作教室やワークショップを11月に開催した。その後、橿原市立こども科学館に出張イベントをおこなうなど相互協力につながったため、今回も科学館のPRも兼ねて協力いただきたい。

#### 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

センター内レストランの新規事業者を2月末まで募集しているので、ぜひ周知してほしい。

以上

幹事館担当年度（くじ引きにより決定）

2023	年度	明石市立天文科学館
2024	年度	京都市青少年科学センター
2025	年度	伊丹市立こども文化科学館
2026	年度	橿原市立こども科学館
2027	年度	綾部市天文館
2028	年度	大阪ガス ガス科学館
2029	年度	姫路科学館
2030	年度	大阪科学技術館
2031	年度	堺市立ビッグバン
2032	年度	すばるホール
2033	年度	キッズプラザ大阪
2034	年度	兵庫県立人と自然の博物館
2035	年度	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
2036	年度	福知山市児童科学館
2037	年度	和歌山市立こども科学館
2038	年度	バンドー神戸青少年科学館
2039	年度	大阪市立科学館
2040	年度	赤穂市立海洋科学館・塩の国